



「バリア」の逆は「ありば」。  
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、「ありば」というタイトルにしました。  
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。  
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介します広報誌、それが「ありば」です。

# ありば

VOL. **46**  
2023



表紙 / 大塚 弘也 (おおつか ひろや) さんの作品

全国障害者技能競技大会 (アビリンピック) 写真撮影の部で、3年連続銀賞を受賞した大塚弘也さん(19歳)。日本代表として今年3月にフランス・メッスで開催された第10回国際アビリンピックに出場しました。本作品は、大会後に楽しみにしていたセーヌ川ディナークルーズで撮影したものです。何かにチャレンジしたいと思っていたとき、通っていた学校でアビリンピックを知り、参加を決意したそうです。大塚さんは、「一眼レフカメラは、国際大会に内定してから挑戦しました。大会に出場して『世界は広い』と感じました。」と話してくれました。普段は、自分の心が動いたときや「あの人に见せたい」という気持ちのときに撮影するそうです。今後は、「自動車運転免許を取得してみたい」と語ってくれました。



## CONTENTS

**[特集]**  
鹿児島県医療的ケア児等支援センター

PAGE **1**

ハードルを越えて  
ピースくん & 美涼ちゃん

PAGE **5**

バリアフリー最前線

鹿児島空港 (ほじょ犬トイレ)  
「身体障害者補助犬」への理解を深めましょう。

PAGE **6**

ありばヒューマンドキュメント  
中畑 芳恵さん

PAGE **3**

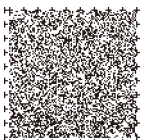
鹿児島県からのお知らせ

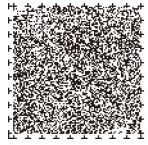
- ・令和6年4月1日から合理的配慮の提供が義務化されます!
- ・農福連携をご存知ですか?
- ・アートを通じて色んな人とつながろう

PAGE **7**

ありば通心  
地域おこし研究員 田中力×大崎町

PAGE **4**





## 令和5年9月5日にセンター開所式を行いました



テープカット



鹿児島県看護協会 八田会長挨拶



塩田知事の挨拶



医療的ケア児者家族会の皆様

### 前野かつ子県医療的ケア児等支援センター長へ、開所の思いをお聞きしました。

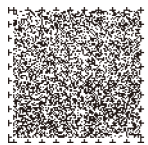
私は、医療的ケア児に関わる中で多くの事を学ばせてもらいました。その中で「私たち人間は、人生の中で人の手を一度も借りずに生きることはできない。様々な方の手を借りる医療的ケア児の問題は個人の問題だけではなく、皆の問題だと気づいて欲しい」とご家族様から伺ったことがあります。センター長として、子ども達から学んだ事を還元しながら、皆様の道標としての役割も担っていきたいと思っています。

当センターは、『どんなことでも聞きたい事を聞ける、様々な関係者と情報交換・提供が出来る場所』にしたいと考えております。医療的ケア児等が地域の一員として、笑顔で暮らし、学ぶ事を守り・支えるために、①相談対応 ②現場支援 ③人材育成 ④ネットワークの構築の4本柱の役割を發揮できるセンターでありたいです。

どんな些細なことでも、お話し下さい。どんな支援を望むのか、どんな思いを持っているのか、不安がらず・諦めず私たちにお伝えください。一緒に考え、一緒に歩いて行く事が、生きる権利を守り支える事だと思えます。微力ではありますが、皆様の支えになれば幸いです。

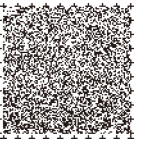


前野かつ子センター長



## 鹿児島県医療的ケア児等支援センターとは

## 特集



「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に基づき、専門のスタッフが、医療的なケアの必要なお子さんとそのご家族、支援関係者の皆さんからの様々な相談に対応するため、鹿児島県医療的ケア児等支援センターを令和5年9月5日に開所いたしました。

当センターは、お子さんが成人した後にご利用いただけます。

皆様からいただいた相談に、医療・保健・福祉・教育等の関係機関が連携して、必要な支援が受けられるよう対応していきます。

### 主な活動

#### ○ 相談対応

- ・医療的ケア児及びその家族等からの電話、メール、来所等による相談対応
- ・地域の医療・保健・福祉・教育などの関係機関等への情報提供や連絡調整
- ・医療的ケア児者・家族会との定期的な意見交換

#### ○ 現場支援

- ・医療的ケア児の訪問看護へ同行訪問しての支援
- ・保育園、学校、障害児通所支援事業所等に出向いての研修や支援

#### ○ 人材育成

- ・訪問看護師のスキルアップ研修や他職種セミナーの開催等

#### ○ 関係機関・団体等との連携・ネットワークの構築

- ・市町村の自立支援協議会（子ども部会等）への参加
- ・圏域を統括する医療的ケア児等コーディネーター（アドバイザー）や県庁内関係課との意見交換
- ・医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、理学療法士・作業療法士・言語療法士会、保育士会、教育関係者等との連携



### 相談窓口

電話 099-814-7418 FAX 099-814-7419

メールアドレス kagoshima.ikeaji.sc@bird.ocn.ne.jp

受付時間月～土・9時～17時（日祝日、年末年始を除く）

※ 来所しての相談をご希望の場合には、事前にご予約をお願いします。

（ご連絡いただければ日程を調整します。）

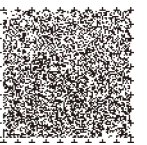
※ 相談は無料です。（別途通話料等はかかります。）

住 所：〒891-0175 鹿児島市桜ヶ丘6丁目12（旧県立桜丘養護学校跡地）

運営団体：鹿児島県看護協会

〽️相談お待ちしております〽️

鹿児島県医療的ケア児等支援センターの開所について

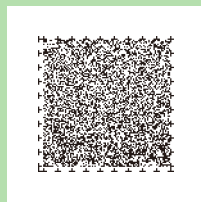




「まずは、まめしば亭に関わる人たちがハッピーに！そして、わんちゃんを通して世界中の皆さんにハッピーを届けていきたいです。」

# ありが

# バ ヒューマン ドキュメント



まめしば亭 / 就労継続支援 B 型事業所 なないろ

## [中畑 芳恵]さん

一人では難しくても、みんながいれば可能性は無量大

伊佐市にある豆柴犬専門ブリーダー『まめしば亭』は、就労継続支援 B 型事業所と提携する日本で唯一の犬舎として、平成30年8月に開所しました。代表の中畑芳恵さんを中心としたスタッフ4人と、委託就労をしている『就労継続支援 B 型事業所 なないろ』の利用者20名で管理・運営をしています。

幼少の頃から犬のいる生活が当たり前だった中畑さん。「わんちゃんと一緒に過ごすことのできるブリーダーは、私にとって理想的な仕事です。」中畑さんは以前、福祉施設で働いていたこともありすが、利用者と施設との間に隔たりがあると感じていました。そこで、「隔たりを解消する施設を作りたい」と考え、ブリーダーの仕事をする B 型作業所・福祉施設として日本で初めての試みをしてみようと思い、『なないろ』の利用者と一緒に運用を開始しました。

前例のない試みのため、立ち上げ時には大人数での作業分担・システム作り、それぞれの障害特性の理解など、苦労した点もあった

そうですが、「できること・できないこと」1つ1つを話し合いながらクリアしていきました。中畑さんは、「手探りでしたが、やめるという選択はありませんでした。何かにつまずいた時、話し合いをしながら進めることは今も昔も変わりありません。」と話してくださいました。

みんなをハッピーに！

まめしば亭でのお仕事には、エサやり、清掃など犬のお世話全般と、SNSの素材の撮影・編集、スタッフの給食づくりなどがあります。犬が苦手な方には、エサづくりなどの内職作業してもらいます。「わんちゃんが苦手という利用者の中には、就労を通してわんちゃんとの絆ができ、苦手意識の壁を乗り越えた方もいらっしゃいます。」と嬉しそうにお話しくださったのは、なないろ施設長の村田さん。毎日お世話をする中で笑顔が増え、他人とのコミュニケーション能力も向上するなど、利用者には様々な効果や影響をもたらしています。作業所の雰囲気について、中畑さんも、「目を合わせて会



中畑さんとなないろ施設長 村田さん

まめしば亭の SNS (YouTube (総再生回数 1800 万回、チャンネル登録者数 4 万人)、Instagram (フォロワー数 4.2 万人)) もぜひご覧ください！

話をするのが難しかった利用者が、相手の目を見ながら誰よりも大きな声で挨拶ができるようになりました。アニマルセラピー効果もあり、作業所はいつも笑顔と笑い声の絶えない場所になっています。」とお教えくださいました。

たくさんの人たちに囲まれ、笑顔の中で育つまめしば亭の犬は、特別な思いや願い、そして愛情をたっぷり注がれやすく育てられています。中畑さんは、「購入を希望される方も施設の利用を希望される方もぜひ一度見学にきてください。一歩踏み出していただければ、まめしば亭の「ハッピー」が伝わると思います。」と、笑顔でお話しくださいました。まめしば亭の様子は SNS でも発信しています。

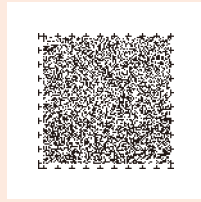


まめしば亭

〒 895-2507 鹿児島県伊佐市大口大田 700-1

TEL : 0995-22-9755

HP : <https://mameshibatei.com/>



## 課題×地域のちから

### 「コミュニティの創出

SDGs 全国屈指の先進地である大崎町では、令和4年から放置竹林の資源化モデルに取り組んでいます。このモデルを提案したのは、大崎町地域おこし研究員の田中力さん。田中さんは、広島大学で環境問題を研究し、広島県庁に入庁。広島県庁に在職のまま、慶應義塾大学大学院に入学し、地域おこし研究員として活動されています。提案の理由については、「放置竹林は災害時の通行の妨げや、野生鳥獣による農作物被害に繋がります。農福連携の力で厄介者扱いされている竹に価値を見出したいと思いました。」とお話してくださいました。

放置竹林に着目した田中さんは、先行事例の調査から始め、「放置竹林の竹炭化」、「竹炭を土壌に散布するサツマイモ栽培」、「干し芋生産・販売」と役割を分担し運用することを大崎町の地域住民、社会福祉施設や企業へ提案しました。サツマイモ栽培と干し芋の販売を担当している社会福祉法人愛生会の新平副理事長は、「この資源化モデルは大崎町

## 地域おこし研究員 田中力×大崎町



地域おこし研究員委嘱 (右: 田中力さん)



愛生会 竹炭散布の様子



竹林整備前



竹林整備後



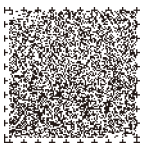
完成した干し芋「結紡—ゆいつむぎ—」

をとりまく地域課題を解決しつつ、ビジネスとして成立する可能性もあると感じました。」とモデルへの参加理由をお教えくださいました。

実際に、愛生会では、通常100円/1kgで出荷していたサツマイモが、竹炭を散布し、干し芋を作ることで、71円/1kgまで収益性をあげることができました。

放置竹林を整備することで、土壌改良だけではなく、竹林整備・竹炭生産を担当している地域の高齢者や福祉施設の利用者にやりがいや働く意欲を生み出しています。田中さんは聴覚障害があることから、元々障害者や高齢者の働く機会の創出に関心を持っていたそうです。「誰かのために役立つ」ということが大切です。障害者や地域の高齢者が竹林整備という共通の仕事をする中で相互理解につながり、自然と互いが支えあうコミュニティが創出されました。」とお話してくださいました。新平副理事長は、「施設の利用者も取り組みが注目されていることを感じており、一層熱心に農作業しているように感じます。干し芋販売に携わる利用者も、一生懸命で誇らしげです。」と作業に対する利用者の姿勢について教えてくださいました。

放置竹林は各地で問題となっています。田中さんは今後、竹の資源化モデルが他地域にも展開され、高齢者や障害者の社会参加と生きがいづくりの場が増えていくことを望んでいます。「健常者と障害者が共通の課題に取り組むことは地域の力を引き出し、新たな「コミュニティの創出につながります。誰もが自然と支え合い、「誰もが誰かのために、共に生きている」そんな共生社会をつくりたいです。」とお話してくださいました。





リレーエッセイ

# ハードルを越えて

42

## ピースくん & 美涼ちゃん (鶴崎亮さん & 橘菫美涼さん) (霧島市)



最前列 / 美涼ちゃん  
中列左から / ピースくん、美涼ちゃん母、  
前田さん  
後列 / 武さん (FM きりしま)

私たち (ピースくん & 美涼ちゃん) は、パーソナリティの前田美樹さんと3人で、FM きりしまで毎週金曜 11 時 30 分から放送されている『ごきげんだけ! Radio』に出演しています。ピース「1 年半前から始まったこの番組に出演することになったきっかけは、僕たちが利用しているワークショップしんあいの理事長の紹介でした。この番組が始まる前にも、理事長の紹介でFM あいらやケーブルテレビで番組を持たせてもらっていました。」美涼「最初、理事長から『ラジオに出てみない?』と声をかけられたときは不安でした。元々話すことが苦手なんです。でも、自分でできることを見つけたいと思って挑戦することにしました。」

ピース「10 年前に失明し、その頃からラジオを聴いています。昔から話すことが好きで、ラジオを聴くようになり、自分の番組を持つことが夢になりました。言葉って人を元気づける力があると思うんです。目が見えなくなったからこそ、会話しながら探って、相手のことを“想う”ラジオ作りをしています。」美涼「心配なこともありましたが、始めてみたら楽しくなって、話したいことも日常の中で探すようになりました。アンテナを張り巡らして、興味をもってもらえるような話しを心掛けています。今は“リハビリ”という私のコーナーがあるので、ラジオ番組のスポンサーをいただいている霧島リハワーク絆さんと取り組んでいる洋服の脱ぎ着や料理などリハビリの様子を、皆さんにお伝えしています。また、障害がある人も色々な場所へ行けること (ユニバーサルデザイン) をアピールする映像を撮影して、YouTube で紹介するモデル活動も始めました。」

ピース「僕は、糖尿病が原因で 28 歳のときに失明したので、中途障害者ならではの苦労がありました。就労継続支援施設というものを知らなかったんです。失明後、2 年ほど引きこもりになっていましたが、ラジオでしんあいのことを知り、『何かを変えたい!』と思い自分で連絡しました。」美涼「私は、20 歳のときに脳出血で倒れ、弱視と左半身まひになりました。母の友人の紹介でしんあいのことを知り、今はピースくんとにんにくの皮むきをメインで作業しています。」

ピース「今後の目標ですが、視覚障害者の働き先を作るために、ラジオ局を作りたいという夢があります。目の不自由な方ってお話することが好きなんですよ。だったらそういう場を作れば良いんだ! と思っています。」美涼「私は、リスナーの皆さんに興味を持ってもらえるように、また声をしっかり出すということにも気をつけてラジオを続けていきたいです。」

ピース「NG の質問はないので、どんどんメッセージを送って欲しいですね。心のやりとりをしていきたい。心のバリアフリーを築いていくことが一番大切です。」美涼「お昼前の 30 分間、ぜひぜひ聴いてもらって、たくさんのメッセージお待ちしております!」



『ごきげんだけ! Radio』には、台本がありません。だからこそ、広がる 3 人の素のトークが魅力です。



講演活動にも力を入れていきたいです。白杖を知らない子どもたちに知るきっかけを作りたいですし、障害をお持ちの方と健康な方の架け橋になればと思います。(ピースくん)



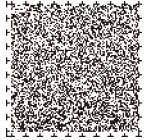
出来る事を増やし、自立に向けて頑張っています。また、モデル活動も今後さらに充実させたいです。(美涼ちゃん)

FM きりしま  
〒 899-4332  
鹿児島県霧島市国分中央 3-33-34  
TEL : 0995-73-7070  
FAX : 0995-73-7071



FM きりしまが聴ける無料アプリ  
「FM プラプラ」のダウンロードはこちら





鹿児島島のいろいろな建物や施設、  
あるいは人の心の中にあるバリアが取り払われています。  
一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

# KAGOSHIMA

# バリアフリー最前線

## Barrier Free-Saizensen



国内線ターミナルビル前面通路1番出入口北側にあります



案内板は5か国語で表記



囲いがある専用区画なので、補助犬も安心できる空間

## 鹿児島空港

(霧島市)

霧島市溝辺町麓 822 番地  
ホームページ  
<https://www.koj-ab.co.jp/>  
国内線ターミナルビル  
開・閉館時間  
6:00 ~ 21:40

※閉館時間は飛行機の運航状況により変わる場合がございます。



写真提供/鹿児島空港ビルディング株式会社

今年10月に開催されるがごしま国体・がごしま大会で、多くの方々が鹿児島空港を訪れることもあり、県内で初めて本格的な『ほじょ犬トイレ』を設置しました。これからも、全ての方々が快適に安心してご利用いただける空港づくりに取り組んでまいります。

●鹿児島島の空の玄関口、鹿児島空港では、令和5年3月から補助犬(盲導犬・聴導犬・介助犬)を伴って空港を利用される方々の利便性向上のため、『ほじょ犬トイレ』の運用を開始しました。以前から、『ほじょ犬トイレ』の設置要望があったため、県内在住の補助犬ユーザーの声を聞いて設計・設置したものです。

トイレ面積は13.4平方メートル、手洗い・水洗及びホース・流し台・汚物入れ・リードフックなどの設備を整えており、車椅子ユーザーも使用しやすい引き戸の出入口となっています。利用可能時間は、国内線ターミナルビル開館時間と同じになっています。なお、補助犬専用のトイレなので、ペットの利用はできません。

### ほじょ犬トイレとは？

補助犬を伴ってご旅行や空港を利用される方々が、自由に利用できる補助犬専用のトイレです。ペットは利用できません。トイレの中には、洗面台、排泄物を処理するためのシャワーと汚物入れ等が用意されています。

## 「身体障害者補助犬」への理解を深めましょう。

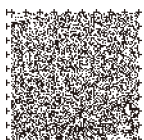


補助犬とは、目や耳、手足に障害のある方をサポートする盲導犬、聴導犬、介助犬のことで、障害のある方が自立と社会参加をするための大切なパートナーです。

補助犬は「身体障害者補助犬法」に基づき訓練・認定されており、ユーザーは衛生・行動管理に責任を持っています。

事業者の方々においては、店舗やホテル等への補助犬の同伴にご理解をお願いします。

また、補助犬を同伴している方がお困りのようであれば、お声がけや筆談などの配慮をお願いします。



# 鹿児島県からのお知らせ



## 令和6年4月1日から合理的配慮の提供が義務化されます！

令和3年に障害者差別解消法が改正され、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されました。改正障害者差別解消法は令和6年4月1日に施行されます。

障害のある人は、社会の中にあるバリアによって生活しづらい場合があります。

障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が示されたときには、負担が重すぎない範囲で対応することが求められます。

「合理的配慮の提供」に当たっては、障害のある人と事業者が話し合い、お互いに理解し合いながら共に対応案を検討することが重要です。

障害のある人への具体的な配慮について、参考事例を県ホームページに掲載しています。詳しくは、県ホームページをご覧ください。



内閣府リーフレット



県ホームページ

**[問合せ先] 県庁障害福祉課 電話：099-286-2753 FAX：099-286-5558**

## 農福連携をご存知ですか？

農福連携とは、障害のある人等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のことです。担い手不足や高齢化が進む農業分野においては、新たな働き手の確保につながる可能性があります。

県では、農福連携の取組を推進するため、一般社団法人かごしま障がい者共同受注センターに農福連携推進専門員を配置し、障害者就労施設等と農業者等のマッチング（契約内容の仲介等）や相談対応を行っています。

農福連携は、農業経営体による障害者の雇用、障害者就労施設による農業参入や作業受託等、様々な形態があります。農福連携について知りたい、または始めたいとお考えの際は、ぜひ農福連携推進専門員に御相談ください。

また、県内の障害者就労施設等の利用者が心を込めて作った野菜やお菓子などを多数販売する「農福連携マルシェ」を令和5年10月11日・12日に鹿児島中央駅AMU広場で開催しますので、ぜひお越しください。



**[問合せ先] 一般社団法人かごしま障がい者共同受注センター 電話：099-206-5210 FAX：099-250-9358**

## アートを通じて色々な人とつながろう

県では、障害者の自立と社会参加を促進するため、芸術文化活動を行う障害者やその家族、福祉施設、支援団体等を支援する拠点として、「鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター」を設置しています。センターの職員が「絵画や作品を発表したい」「芸術文化活動のヒントが欲しい」等の相談に応じます。このほか、芸術文化活動を支援する人材の育成や障害者による芸術文化作品の展覧会開催、県内の芸術文化活動情報の収集・発信等も行っていきます。

受付時間は9時から17時（土日祝日、年末年始除く）です。お気軽に御相談ください。



**[問合せ先] 県障害者芸術文化活動支援センター（実施団体：社会福祉法人ゆうかり）**

住所：〒890-0014 鹿児島市草牟田1丁目8-7 電話：080-8379-7852 FAX：099-813-7175

メール：kac@yuukari-s.jp



[感想をお寄せください]

鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課障害者支援室

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

TEL.099-286-2111(内線2746) FAX.099-286-5558

Vol.46 令和5年9月29日発行

[E-mail]shougai@pref.kagoshima.lg.jp

[URL]http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/machi/index.html

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へ御連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視聴覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。

### [SPコード]について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々を[SPコード](音声コード)といいます。この18ミリ四方の一つのSPコードの中に、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み取り機でSPコードを読み込むと、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもSPコードの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用